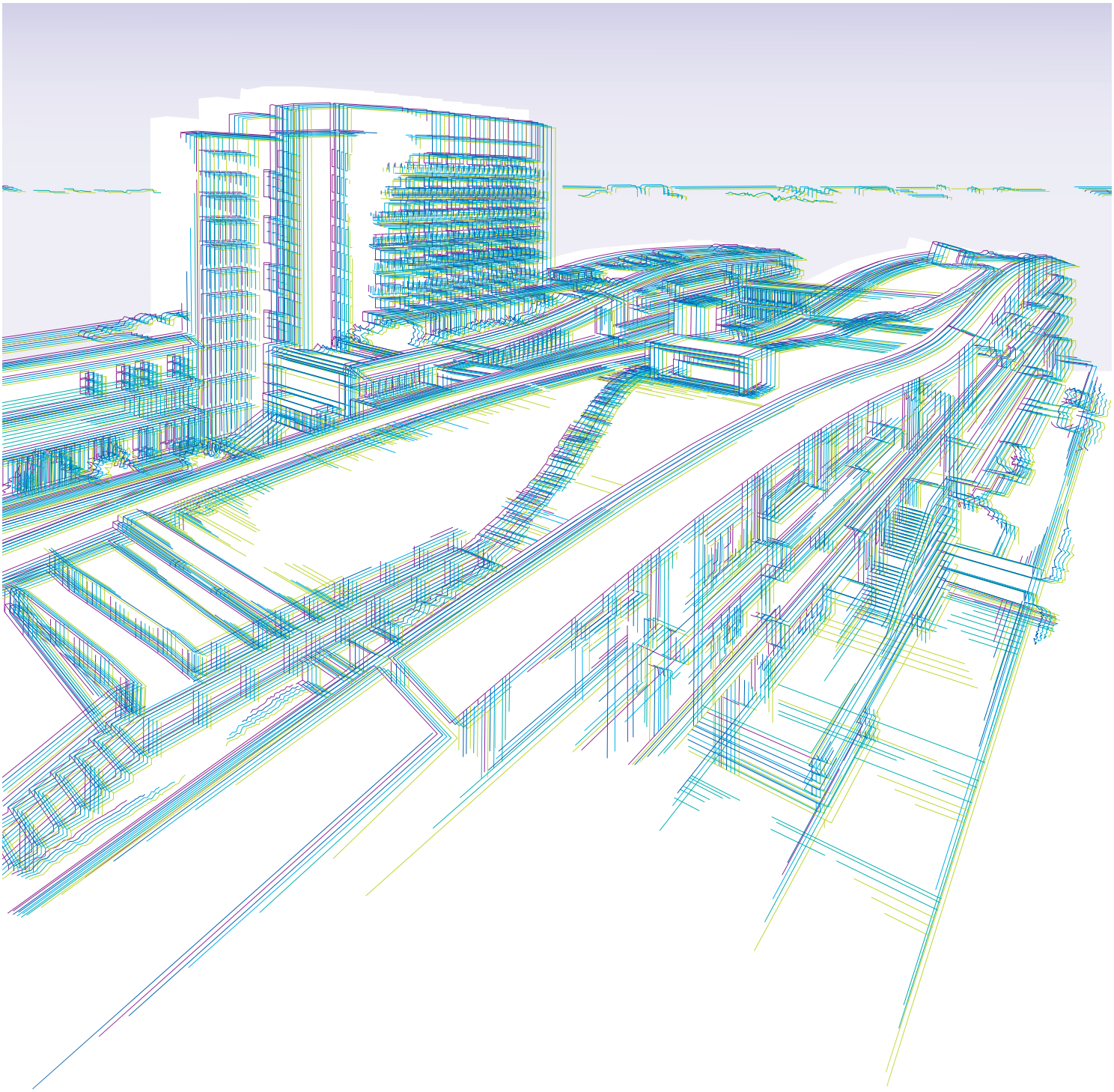


SUAC 2025年度

大学院案内

文化政策研究科 修士課程／文化政策専攻　デザイン研究科 修士課程／デザイン専攻

公立 | 静岡文化芸術大学

さらなる2年が拡げる「文化」「デザイン」の未来像。

新時代を拓く高度な専門家への道

平成12/2000年に開学した静岡文化芸術大学は、
さらなる飛躍と社会的使命を果たすため、平成16年に大学院を開設しました。
新たな時代を拓く創造力と高度な実践力を持つ人の育成、それが本学の大学院が目指す役割です。
近年、「プロフェッショナル」という言葉が輝いています。専門家をたたえるこのカタカナ語は、
その人の仕事の結果だけでなく、仕事ぶりへの感動もこめて語られます —— そう、とくに
その姿が、相互依存を深める地球社会の構成員にふさわしい生き方をも示唆している時に。
すぐれた文化やデザインには、モノやコトをつなぎ、明るくアヤを織りなす社会をつくる力があります。
そのような力を、たゆまぬ研究心で伸ばしつづける人こそ、この大学院が鍛える「仕事人」です。
産業革命以来、人類が手にした多くの技術は強力ではありますが、まだ粗野なままです。
それらの力が交わる社会を、環境とともに輝かせるための文化とデザインが問われています。
本学専攻課程では、個性も経験もゆたかな教員たちが連携しつつ個人指導にあたります。
この冊子で、地域と世界をともに見つめ活躍する「仕事人」となる夢をふくらませてください。

静岡文化芸術大学　学長
横山俊夫　YOKOYAMA Toshio

文化政策研究科

Graduate School of Cultural Policy and Management

文化の力を形にし、社会に提供できる人材を

人間社会において、文化は人を動かし、束ねる大きなエネルギー源です。また、様々な示唆と知恵を人間に与えてくれる集合体でもあります。こうした文化の力を、人間の未来社会のために形にする営みが「文化政策」とも言えます。私たちは、文化・芸術創造や組織運営のあり方を探求し、「文化政策」をプロジェクトや政策として提案できるプロフェッショナルな人材を育成します。

◎アドミッション・ポリシー

文化政策研究科では、以下に掲げるいずれかの意欲、知識、能力をもった人材を国内外から広く受け入れます。

◎国内の学士課程卒業者
学士課程での多様な研究成果をふまえ、社会の様々な課題解決に向け、文化や芸術の視点を持って研究を行い、将来、高度専門職業人としてそれを実践していく意欲と専門知識、及び、多様な学問分野の国際的研究成果を応用することができる学習・研究能力。

◎国内の社会人
社会人としての実務経験を通して得られた問題意識にもとづき、社会の様々な課題解決に向け、文化や芸術の視点を持って研究を行う意欲、及び、明確な研究計画とそれを推進する管理能力、その成果を活かして実践していく能力。

◎諸外国の学士課程卒業者
諸外国の学士課程での多様な研究成果をふまえ、社会の様々な課題の解決に向け、文化や芸術及び国際比較の視点を持って研究し、将来、高度専門職業人としてそれを実践していく意欲、専門知識、日本語能力、及び、多様な学問分野の国際的な研究成果を応用することができる学習・研究能力。

◎諸外国の社会人
諸外国における実務経験をふまえ、社会の様々な課題の解決を文化や芸術及び国際比較の視点を持って研究を行う意欲、専門知識、日本語能力、及び、多様な学問分野の国際的な研究成果を応用することができる学習・研究能力。

文化政策研究科

現場からの学びを重視した実践的なカリキュラム

文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術のもつ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教員の指導のもと展開していきます。

Arts and Cultural Management

アーツアンドカルチュラルマネジメント

楽団、劇団、美術館などの民間および公立の施設運営、行政の文化政策、文化産業、文化イベントなどのあり方や可能性に関する研究を行います。

Regional Policy and Management

地域政策マネジメント

まちづくりや地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価など、未来の地域に必要な活動や政策のあり方や可能性に関する研究を行います。

Glocal Studies

グローカルスタディーズ

グローバル化の影響で、世界的規範や法、地域社会にどのような変化が生まれているのか、そして未来の持続可能な社会のあり方や可能性に関する研究を行います。

将来の希望を叶えるため 大学院で専門性を強化 研究と実践で学びを深める

修了生の声

広州雲幕劇場（中国）

譚（タン） 剣倫（ケンリン）さん

文化政策研究科 2020年度修了

入学の動機　本国では音楽系大学でアートマネジメントを専門に学んでいました。劇場のことに興味があり、将来も劇場で働きたいと考えていましたが、当時は劇場の専門知識や経験が乏しかったため、大学院で劇場を学問として研究したいと考えました。劇場学の研究者である永井聡子教授に師事し、SUAC大学院に進学しました。

大学院での学びを現在の仕事へ　大学院は研究の入門段階だと思います。さまざまな知識を学びながら、自分が研究したいことに積極的に取り組んでいくことが大事です。SUAC大学院では研究方法の習得はもちろん、自分の研究能力も強化していく中で、考え方も徐々に変化していきました。文化政策学、アートマネジメント学、劇場学など、同じことでも各学問の視点から見れば、結論が全く違うことも研究の楽しみだと思います。

進路実績（抜粋）

- 公益財団法人掛川市生涯学習振興公社
- 公益財団法人静岡県舞台芸術センター（SPAC）
- 公益財団法人豊田市文化振興財団
- 公益財団法人名古屋国際センター
- 公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）
- 公益財団法人浜松市文化振興財団
- 公立大学法人静岡文化芸術大学
- 株式会社大阪市開発公社
- 特定非営利活動法人 国際舞台芸術交流センター（PARC）
- 特定非営利活動法人 グッドネーバーズ・ジャパン
- サントリーパブリシティサービス株式会社
- 株式会社四季
- 株式会社ファミリーマート
- 株式会社北國新聞社
- 静岡県庁
- 静岡市役所
- 浜松市役所
- 【進学】名古屋大学大学院博士課程 一橋大学大学院博士課程

カリキュラム構成の特徴

01 基礎科目

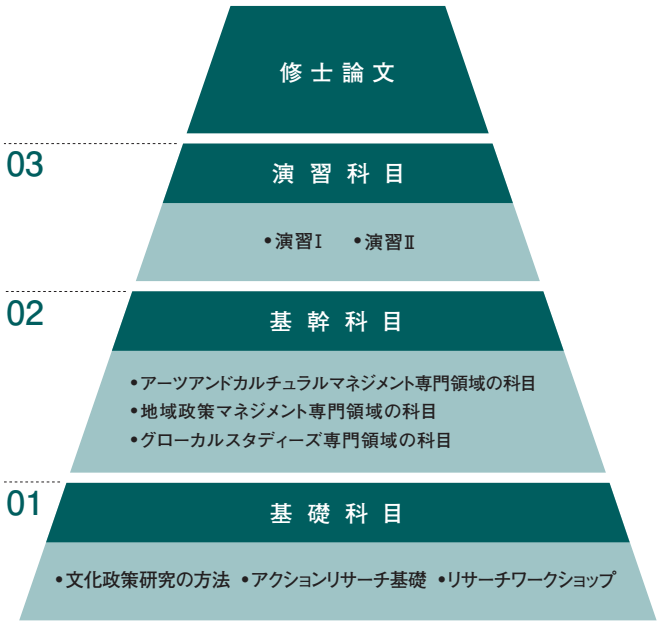
修士論文の構想づくりを進めるための「文化政策研究の方法」と、修士論文の仮説をフィールドワークや現場での調査を通して複数の教員とともに考察していく「アクションリサーチ基礎」「リサーチワークショップ」があります。

02 基幹科目

各分野の概論的な知識を学び、学際的な系譜を学ぶための「領域横断科目」と、「アーツアンドカルチュラルマネジメント」「地域政策マネジメント」「グローカルスタディーズ」に関係した専門的な内容を学ぶ「専門科目」があります。

03 演習科目

演習Ⅰ（1年目）と演習Ⅱ（2年目）から構成されています。演習Ⅰは異なる教員による2つを履修し、領域横断的に学びます。演習Ⅱはさらに1名の教員の本格的指導のもと、論文を完成させていきます。また研究科内での発表会の機会もあります。



修士論文テーマ（例）

- 地域志向型劇団の可能性と課題
  ―地域との関係性に注目して―
- 浜松地域における中小ピアノメーカーの軌跡
  ―アトラスピアノ製造を事例に―
- 呉市例大祭の動態的研究
  ―歴史的変遷と社会的役割の変化―
- バングラデシュのナショナル・アイデンティティ形成
- バングラデシュにおけるテロ対策の変遷
  ―2016年のダッカテロ事件後の対応―
- 中国人アートマネジメント人材のキャリア
  ―日本留学経験者に着目して―
- 芸術政策を巡る合意形成とローカルアーツエージェンシー
  ―ポートランド市の芸術税とパブリックアートプログラムに着目して―
- 静岡県浜松市の在日ブラジル人第2世代のメンタルヘルスをめぐって
- トランスナショナルなコンテンツが持つ可能性
  ―日本バラエティ番組に関する対立と調和―
- 社会的包摂とねむの木学園
  ―宮城まり子の活動に着目して―
- 公立図書館運営に求められるパートナーシップ
  ―中津川市の事例分析―
- 浜松市の自治会における規範維持と合意形成

※修士論文は静岡文化芸術大学学術リポジトリ（https://suac.repo.nii.ac.jp/）をご参照ください。

文化政策研究科教員紹介

＊は修士論文の研究指導教員　以下50音順

上山 典子　教授／文化政策研究科長＊

専門：西洋音楽史／音楽文化論

西洋音楽史、西洋音楽文化に関する研究を行う。『「新ドイツ派」概念の成立―リストのヴァイマル時代（1848-1861）と「未来音楽」をめぐる論争―』で博士号（音楽学）取得。日本音楽学会、日本音楽表現学会会員。

石坂 貴美　准教授＊

専門：国際開発／地域研究（アジア）

JICA青年海外協力隊、NGO勤務、個人コンサルタント業など経て、南アジアや東南アジアをフィールドに人びとの暮らしを守るセーフティ・ネットについて研究。金融包摂、農村研究、女性グループ活動などにフォーカスを充てている。

内尾 太一　准教授＊

専門：文化人類学／多文化共生論

東日本大震災のエスノグラフィで博士号（国際貢献）を取得。主著に『復興と尊厳』（2018）、訳書にM・ローゼン『尊厳』（2021）がある。災害や多文化共生をテーマに、困難に直面した人々と共にあるための研究の可能性を探求。

梅田 英春　教授＊

専門：民族音楽学

インドネシア、特にバリ島の芸能、またインドネシアの文化政策と芸能の研究を行う。主な著書に『バリ島の影絵人形芝居ワヤン』（2020）、『バリ島ワヤン夢うつつ』（2009）など。日本音楽学会、東洋音楽学会、日本文化人類学会等に所属。

奥中 康人　教授＊

専門：音楽学（近現代の日本の音楽史）

近代日本の音楽文化を調査・研究。おもな著作に『国家と音楽伊澤修二がめざした日本近代』（2008）、『幕末鼓笛隊　土着化する西洋音楽』（2012）、『和洋折衷音楽史』（2014）など。日本音楽学会、東洋音楽学会に所属。

加藤 裕治　教授＊

専門：文化社会学／メディア論

（株）文化科学研究所研究ディレクター、早稲田大学プロジェクト研究所（文化社会研究所）招聘研究員を経て現職。研究領域は文化社会学、マスメディア研究、消費文化論等。現在、日本社会学会、関東社会学会、マス・コミュニケーション学会等に所属。

佐藤 良子　准教授

専門：舞台芸術政策論／地域文化振興論

音楽や舞台芸術分野の地域での活動や人材育成に係る政策・制度を中心に研究。著書に『公共ホールと劇場・音楽堂法』（2013、共著）など。文化経済学会〈日本〉、日本文化政策学会、日本音楽芸術マネジメント学会等に所属。

塩見 佳也　准教授

専門：憲法学／行政法学

国家（法規制）と市場（営業の自由・契約の自由）の関係の法的構成という観点から、憲法・行政法理論を研究。公民連携まちづくりや公共施設のPFIなど現代日本の具体的実例も研究している。日本公法学会、日本法哲学会等に所属。

鈴木 浩孝　教授

専門：応用ミクロ経済学／産業組織論

研究領域は産業組織論。特に寡占市場での企業間の競争や取引について、応用ミクロ経済学の観点から数理分析を行っている。スズキ株式会社勤務時は監査役室に所属。日本経済学会、日本応用経済学会、日本商業学会に所属。

曽根 秀一　教授

専門：経営戦略論／経営組織論／企業史

企業や産業の存続をテーマに理論、実証に加え、国際比較研究を行っている。主著に『老舗企業の存続メカニズム』（2019）等。学位は博士（経営学）。カナダ・メモリアル大学客員研究員、帝塚山大学講師等を経て現職。組織学会、日本経営学会等に所属。

高島 知佐子　教授＊

専門：アートマネジメント／文化産業

伝統芸能と伝統工芸を中心に、文化を担う団体の長期的なマネジメントに関する研究を行う。自治体等の文化支援・評価にかかる委員を務める。文化経済学会＜日本＞、日本アートマネジメント学会などに所属。

武田 淳　准教授＊

専門：開発人類学／環境社会学

コスタリカをフィールドに開発（国際協力）による社会変容を研究。環境と開発、フェアトレードなどを切り口にM.フーコーの権力論を応用した理論研究を行う一方、国際協力の実践を行ってきた。博士（学術）。日本環境学会常任幹事。

武田 好　教授

専門：イタリア文化／イタリア語

研究領域はイタリア文化。NHKラジオイタリア語講座講師を16期（応用編12期、入門編4期）、テレビ講座講師を4期務める。著書に『君主論マキャベリ　100分de名著』（2012）、『これならわかる　イタリア語文法』（2016）など。日本イタリア学会、伊日研究学会会員。

田中 啓　教授＊

専門：行政学／地方行財政／政策評価・行政評価

民間シンクタンクを経て2004年に本学に赴任。評価の理論・手法を研究する一方、中央省庁や自治体における評価の実践にも深く関わる。自治体の行財政改革審議会等を歴任。著書は『自治体評価の戦略』（東洋経済新報社）など。

谷川 真美　教授＊

専門：現代美術／芸術学

（財）京都服飾文化研究財団学芸員を経て現職。現代美術分野の美術評論、展覧会企画運営等に携わる（現在に至る）。公立美術館、博物館等の運営協議会、外部評価委員会委員等を歴任。美学会、映像学会、日本マンガ学会会員。

田ノ口 誠悟　講師

専門：舞台芸術論／演劇・劇場史／劇場文化

フランスを中心に欧米諸国の演劇、舞台芸術を研究している。また、仏語戯曲の翻訳家、演劇上演のアドバイザー・ドラマトゥルクとして劇場で仕事をしている。日本学術振興会特別研究員PDを経て現職。

永井 聡子　教授＊

専門：舞台芸術論／演劇・劇場史／劇場プロデュース論

単著『劇場の近代化』思文閣（2014）、共著『A History of Japanese Theatre』Cambridge University Press（2016）、名古屋大学博士論文（2001）で博士号取得。公立劇場基本計画・演劇プロデューサー。芸術文化振興基金演劇、文化施設専門委員歴任。日本建築学会文化施設委員、日本演劇学会会員。

西田 かほる　教授＊

専門：日本近世史（宗教史、女性史）

日本近世の宗教者やその組織に関する研究を行う。著作には『近世甲斐国社家組織の研究』（2019）。史学会、地方史研究協議会等に所属。

野島 那津子　准教授＊

専門：医療社会学／福祉社会論／社会的排除

病者・障害者の語りないし生活を支える物質的基盤や、社会的排除のプロセスに内在する「合理的」排除の実践を研究。著書に『診断の社会学：「論争中の病」を患うということ』（2021）。日本社会学会、日本保健医療社会学会等に所属。

藤井 康幸　教授＊

専門：都市・地域計画／まちづくり／創造都市

総合建設会社と民間シンクタンクを経て現職。米国認定都市プランナー（AICP）として米国をはじめとする海外にネットワーク。最近の関心は、個性的で魅力ある都市、持続可能な都市、都市・地域にかかる計画と政策の領域。

宮崎 千穂　准教授

専門：異文化交流史／医学史

主に18・19世紀の異文化交流史を、旅と病の関係、疾病のありよう、医学・薬学のあり方に着目して研究している。また、19世紀・20世紀の日本の知識人たちにとっての“シルクロード”の解明も目指している。

森山 一郎　教授＊

専門：経営学／マーケティング論

大手小売業、消費財メーカーにて長く経営企画・販売企画等に携わる。組織の市場創造活動をテーマに理論的な研究のみならず、実践的な活動にも取り組む。自治体の大規模小売店舗出店や産業活性化等に関わる委員も務める。日本商業学会、日本流通学会、日本マーケティング学会等に所属。

横田 秀樹　教授＊

専門：第二言語習得／英語教育／心理言語学

第二言語習得、外国語の文法指導について研究。Acquisition of Wh-questions by Japanese Learners of English（2011）でPh.D.（言語学）を取得。著書は『英語教育の素朴な疑問』（2014）、『言語習得研究の応用可能性』（2019）等。日本第二言語習得学会会長。

四方田 雅史　教授＊

専門：社会経済史／産業史

専攻は経済史・産業史・経営史で、特に日本とアジアの比較経済史から制度・文化と経済成長の関係を研究。学位は博士（経済学）。日本学術振興会特別研究員、早稲田大学政治経済学術院助教等を経て現職。社会経済史学会、経営史学会等に所属。

◎ 大学院を受験する際は、大学院学生募集要項により、指導教員と指導領域を確認した上で、指導を希望する教員に事前相談をしてください。
相談窓口：入試室 Tel.053-457-6401　nyushi@suac.ac.jp

※2024年度に在籍している教員を掲載しています。

デザイン研究科

Graduate School of Design

社会を見据え、新たなデザインを探求する。

いまデザインは、深く社会にかかわり、問題を美しく解決するための方法として大きく期待されています。人間や社会、地球環境に対する深い造詣とモノづくりへの情熱をベースに、企画立案能力から実務的設計能力まで、これからのデザインプロフェッショナルに必要な専門知識と応用能力を高め、社会の要請に応える人材を養成していきます。

◎アドミッション・ポリシー

デザイン研究科では、以下のような意欲、知識、能力をもった人材を国内外から積極的に受け入れます。

◎専門分野における知識や造形力をさらに深めたい人
◎国際的・学際的な視点で、デザイン提案や理論の創出を求める人
◎研究・制作活動を行う専門知識と語学力を持ち、その成果を社会に向けて発信できる人
◎社会人としての実務経験を通して、明確な研究計画と研究成果を社会で実践していく構想を持つ人

デザイン研究科

研究分野

高度情報化、循環型社会への転換、そして高齢化の進展など、大きく変化する時代環境にあって、デザインに要請される内容は多様化し、デザイナーには専門的な能力が幅広く求められるようになっています。デザイン研究科では、そのような社会的要請に応えるために、皆さんがこれまでに身につけたデザインあるいはその他の分野の専門性をベースにして、より高度なデザインの力を磨くための実践的な研究の場を提供します。

大学院で養った思考力とデザインスキルを糧に幅広いアウトプットに繋げる

修了生の声

株式会社セガ
デザイナー
野澤 陽彩さん
デザイン研究科 2022年度修了

入学の動機　以前からクラシック音楽の魅力を若い世代に発信するデザイン手法について研究したいと考えていました。学部で学んでいた視覚的なデザインだけではなく、インタラクティブなデザイン提案など、より多角的に試行錯誤を重ねることができると考え、大学院への入学を決めました。音楽をテーマにする上で、浜松で研究ができるということも大きな決め手になりました。

大学院での学びをさらに深める　大学院のカリキュラムを通し、論理的思考力と幅広いデザインスキルを養いました。その学びを活かして、ヒアリング調査や実際に展示を行うことでニーズを明確にし、若い世代に向けて有効なデザイン手法を多角的に提案することができました。現在の仕事でも日常的に様々なエンタメについて分析し、広く選択肢を持ってアウトプットを考えるようにしています。

進路実績（抜粋・50音順）

- いすゞ自動車株式会社
- 株式会社一条工務店
- 株式会社イリア
- 運城幼児師範高等専科学校（中国、教員）
- 柏木工株式会社
- コイズミ照明株式会社
- 株式会社GKテック
- ジェイアール東海建設株式会社
- 静岡県森町まちおこし協力隊
- 株式会社シャンソン化粧品
- スズキ株式会社
- 株式会社セガ
- チームラボ株式会社
- 中央コンサルタンツ株式会社
- 株式会社電通
- 豊田合成株式会社
- 株式会社乃村工藝社
- 株式会社博報堂プロダクツ
- 浜松市役所
- 株式会社日立建設設計
- 富士通株式会社
- ブラザー工業株式会社
- 株式会社ボークス
- 三井デザインテック株式会社
- 三菱地所レジデンス株式会社
- 三菱電機住環境システムズ株式会社
- 学校法人トキワ松学園 横浜美術大学（教員）
- 【進学】筑波大学大学院人間総合科学研究群デザイン学学位プログラム（博士課程）

カリキュラム構成の特徴

デザイン研究科のカリキュラムは、3つの要素で構成されます。

01 特論科目

各デザイン分野に対応した少人数制の専門科目により構成されます。学生は、各特論科目の履修を通じ、高度な専門知識の習得を図ります。また、学際的な研究能力を高めるために分野を横断する科目履修を基本とします。

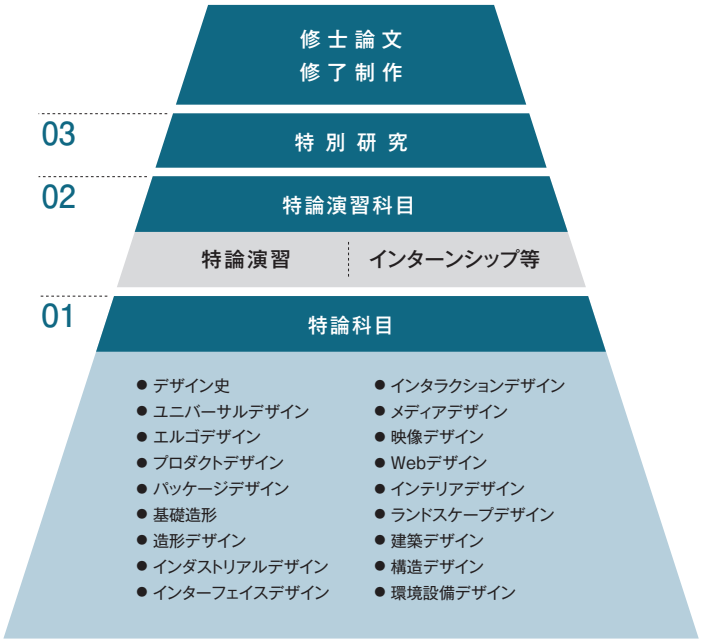
02 特論演習科目

特論演習やインターンシップ等により構成され、特論科目の学修内容を深化・発展させるとともに、実践的な能力を身につけます。特論演習は各特論科目に対応して開講され、学生は、各自の研究計画に沿って科目を選択して履修を進めます。

03 特別研究

指導教員の指導のもと、大学院在学期間を通して研究活動を推進し、その成果を修士論文または修了制作としてとりまとめ、2年次後期に提出します。

デザイン研究科において、所定の単位を修得すれば、一級建築士免許登録要件の実務経験2年として認められます。



修士論文・修了制作テーマ （抜粋・2023年度実績）

- サウンドインタラクティブ装置
- 自動運転によるシェアリング移動空間におけるコミュニケーション研究
  ー社交スタイルを自由にー
- 障害児とともに学ぶ場作りに関する研究
  ー視覚障害児童を対象としてー
- 身体感覚を用いた設計手法に関する研究
  ーひとりの範囲が流動的な居住の集合体の設計を通してー
- 大学と都市との繋がりに関する研究
  ー静岡文化芸術大学の研究・教育・活動を生かす手法を通じてー
- 人間と水景の共生モデルに関する研究
  ー熱海市渚町における親水空間の提案ー
- 現代都市におけるアーバンランドアートの研究
  ー浜松中央卸売市場余剰地利活用の可能性提案ー
- 視覚に頼りすぎずに移動できるアシストツールの提案
  ー視覚障害者の外出をアシストするためのRFID技術を用いたツールの探究ー
- ゲームグラフィックとしてのドット絵の魅力に関する考察とゲーム制作
  ー制限された表現から解き放たれ文化になったピクセルアートー
- Again（3DCGアニメーション）
- 静岡県農林技術研究所茶業研究センターのインテリア設計

※修士論文・修了制作要旨は静岡文化芸術大学学術リポジトリ（https://suac.repo.nii.ac.jp/）をご参照ください。

デザイン研究科教員紹介

中野 民雄　教授／デザイン研究科長

専門：スマートデザイン／建築環境・設備

建築環境・設備分野は、建築・デザインの世界では長い間日陰の存在でした。環境に良くてもデザインが良くない建築は誰も購入しません。省エネになるといっても高価な建築は誰も購入しません。エコロジーとエコノミーを両立し、さらにデザインを融合させた「スマートデザイン」を一緒に考えて実践していきましょう。

礒村 克郎　教授

専門：パブリックデザイン

インダストリアルデザインは、個人の場から都市空間に至る様々な領域で展開されています。研究室では、ストリートファニチャーから街路まで、プロダクトから建築空間まで、公共の場のデザインについて、デザインプロセス・造形・ライフサイクルを計画・研究します。

岩崎 敏之　教授

専門：構造デザイン

アイデアを形にするために構造は不可欠です。構造についての探求とは、単に力学的な計算方法を学ぶということではありません。自然界の形、伝統的な建造物、多くの優れた実例から、力と形の関係を洞察できる能力を磨くことが重要です。院生の皆さんに、構造感覚を磨き上げる機会を提供します。

植田 道則　教授

専門：建築とインテリアの空間デザイン

ある意味で、人と環境は、トランザクショナル（相互浸透）の関係にあると言われます。このことに着目し、日本の美意識が育んできた内外空間デザインを、人の五感を拠り所とするインタラクティブな発想を伴いながら、関係づけられることを探求しています。

小浜 朋子　教授

専門：ユニバーサルデザイン（UD）

人の多様性を理解し、潜在的なニーズを可視化するプロセスを探求し、できる限り全ての人が使いやすいデザイン（ＵＤ）を創出します。観察や調査、プロトタイプの制作、検証、実験などを通して『気づきを価値化する提案力』を身につければ、社会に出てから様々な形で活かせます。そして何より、日常生活も楽しくなります！

亀井 暁子　教授

専門：建築設計／サスティナブルデザイン

建築設計は、その場所や周辺環境が持つ様々な要素－文化や歴史、コミュニティといった目に見えない要素まで含めて－と向き合い、読み解き、様々なスケールを行き来しながらその場所にふさわしいありかたを模索することの積み重ねです。協働を通して学び考え、環境を創る楽しみを皆さんと共有したいと思います。

かわ こうせい　教授

専門：絵本／イラストレーション

絵本は、ひとが人生の最初に出会う視覚メディアであり、その後の人間づくりに大きな影響を与えるため、人類の美と叡智の結晶が最高の形で注ぎ込まれています。総合芸術である絵本の研究制作を通して、イラストの表現力や伝える力を磨くとともに、普遍的価値や人類の知恵に触れることができるでしょう。

寒竹 伸一　特任教授

専門：建築・都市デザイン

街には、なんとなくフラットでアドリブ的な建築・都市空間が増えています。通時的・共時的比較によって各々の歴史・文化・風土を理解し、これからの建築・都市空間を、院生の皆さんと一緒に考えデザインしていこうと思います。

佐井 国夫　特任教授

専門：グラフィックデザイン

今日、私たちの社会生活の様々な領域で、グラフィックデザインによって視覚化された情報は数多く見られます。社会の視点から情報の意味を捉え直し、院生の皆さんと一緒に新たなビジュアルコミュニケーションデザインの可能性を探求してみましょう。

迫 秀樹　教授

専門：人間工学

私の専門とする人間工学はユーザにとってより良いデザインを検討するための学問分野です。そして人間工学はデザイナーにとって自分のデザインに説得力を持たせるための技術であるとも言えます。その技術を磨くことにより，新たな観点を身につけることも出来ると考えています。

佐藤 聖徳　教授

専門：プロダクトデザイン／生活道具とアート

デザインと芸術の関係性を広く深く探ります。二つの関係性の研究を通した生活道具のデザインを進め、様々な問題解決のための視点を見つけ出します。研究理論だけにとどまらず、デザインを具現化するために手を動かし制作しながら考える努力をしていきます。

高山 靖子　教授

専門：プロダクトデザイン／マネジメント

人の心を動かすモノのデザインは、人々の暮らしを支え、文化を育み、事業を創り、社会の変化に多大な影響を及ぼします。人々の心を豊かな社会に向けて動かすデザインと、それを実現する仕組みについて、一緒に考えましょう。

羽田 隆志　教授

専門：プロダクトデザイン

プロダクトデザインはモノづくりではありません。人と人とのモノを介してのコミュニケーションです。人は表面的な外観より深い作り手の意図を感じ取るのです。道具では使い心地によって、乗りものでは乗り味によって伝わるのです。より深くより魅力あるメッセージを込めたデザインを目指しましょう。

服部 守悦　教授

専門：トランスポーテーションデザイン／プロダクトデザイン

移動機器と、それを取り巻く各種のプロダクトデザインやサービスデザインについて研究しています。100年に1度の変革期と言われる今、次世代モビリティの普遍性と革新性、それがもたらす新たなライフスタイルや体験価値、交通環境の未来について一緒に考えましょう。

花澤 信太郎　教授

専門：建築設計／都市デザイン

日本には豊かな空間デザインの伝統があります。この蓄積をふまえながら、つぎの世代への価値ある提案を行うために、研究室では、見ること、考えること、手を動かすことのトレーニングを繰り返し行いたいと思います。

日比谷 憲彦　教授

専門：グラフィックデザイン

グラフィックデザインは平面に留まらない、というのが私の基本的な考えです。印刷物の制作はもとより、シンボルマークやカラーを空間に展開して施設や企業のイメージを構築したり、サイングラフィックによって人の意識や行動を制御することを研究テーマとして活動しています。

藤井 尚子　教授

専門：テキスタイルデザイン

大学院は、興味を深化させる場です。技術や思考の深化はもちろん、隣接する多領域を深く学び、異なる立場の人々と関わり献身できる、豊かな地力を深耕する時間です。あなたの目指すテキスタイルが「素材」か「作品」かで、耕す道具も変わります。テキスタイルの可能性を一緒に拓きましょう。

的場 ひろし　教授

専門：インタラクションデザイン／メディアアート

「インタラクションデザイン」と「メディアアート」は、異なる分野のように見えても深く関連しており、新しいタイプのクリエイター達が二つの分野を自由に行き来し、ユニークな成果を作り出しています。皆さんもこれからの分野の考え方や技術を身につけて、新しい成果を創出し、世界に発信していきましょう。

和田 和美　教授

専門：メディアアート／Webデザイン

今、インターネット業界はハンパなく流転しています。つい先日ドイツでは、いきなり日本の512倍の通信速度に成功したって、何それ?Flashはウェブから撤退させられそうな気配があるも、代替テクノロジーはまだまだ…。明日何がどうなるか、私もわからない今日この頃、さてあなたの立ち位置は?

小川 直茂　准教授

専門：グラフィックデザイン

リアル／バーチャル双方で様々な情報が氾濫する現代、コミュニケーションにおける情報の見やすさや分かりやすさの重要性が増しています。私は高度情報時代における情報表現と情報伝達のあり方について、視覚的な視点での研究・制作活動に取り組んでいます。

丹羽 哲矢　准教授

専門：建築／地域／景観デザイン

建築は社会的存在であるため、社会や発注者の要望を理詰めで考えて解決し説明する必要がありますが、要望を満たせば建築ができあがるわけではありません。それらを超越し、理屈では説明できない直感的で情動的な魅力を内包した建築を提案し、多くの人々の協力を引き出せるような人材を育てたいと考えています。

百束 朋浩　准教授

専門：映像学／映像技術

映像は、理論と実践、芸術と科学といった領域を横断する学際研究が必要であると考えています。映像は総合芸術であり、映像を作るには科学技術とそれを使いこなす手法を学ぶ必要があります。新しい制作手法や技術は新しい表現の実現には必要な要素であると考えています。

松江 幸子　准教授

専門：プロダクトデザイン

技術革新や社会課題の多様化によってデザインの定義が変容を見せる中、価値を生み出すプロセスにも進化が必要です。人を主役に、物やサービスとの接点にある物語を深め、生活や社会をよりよく美しいものにするデザインを共に探究しましょう。

宮地 良治　准教授

専門：UX/UIデザイン／プロダクトデザイン

ライフスタイルの大きな変化による新たな生活の困り事や社会課題に対して、デザイナーにはその発想力を活かした解決を求められています。UX/UIデザインの観点で課題を解決し、新しいサービスの価値創出に取組んでいきます。

◎ 大学院を受験する際は、大学院学生募集要項により、指導教員と指導領域を確認した上で、指導を希望する教員に事前相談をしてください。
相談窓口：入試室 Tel.053-457-6401　nyushi@suac.ac.jp

※2024年度に在籍している教員を掲載しています。

2025年度 募集概要

詳しくは、大学院学生募集要項をご確認ください。

専攻及び募集定員

研究科	専攻	定員	修業年限
文化政策研究科	文化政策専攻	10人	2年※1
デザイン研究科	デザイン専攻	10人	

※1 本学では、修業年限を３年とする長期履修制度を設けています。職業を有している等の理由により、申請し、許可された場合に対象となります。
詳しくは、学生募集要項をご覧ください。

入試日程・試験会場

試験会場：静岡文化芸術大学（全日程共通）

日程	出願期間	試験日	合格発表	試験実施研究科	
				文化政策	デザイン
A日程	2024年 8月16日(金)～8月23日(金)	2024年 9月18日(水)	2024年 9月25日(水)	○	○
B日程	2025年 1月 6日(月)～1月14日(火)	2025年 2月 8日(土)	2025年 2月14日(金)	○	○

(注) 複数回受験可。なお、日程は変更になる場合がありますので、公式Webサイト等により確認してください。

初年度学費等

		県内者	県外者
両研究科共通	入学料	141,000円	366,600円
	授業料	535,800円※2	535,800円※2
	学生教育研究災害傷害等保険料	2,430円	2,430円
	後援会費	20,000円	20,000円
	同窓会費	20,000円	20,000円
	初年度納入金 計	719,230円	944,830円

(注) 上記は2025年度予定です。変更になる場合がありますので、納入金額は入学手続き時に確認してください。
※2 「専攻及び募集定員」の※1の長期履修制度を利用して修学する場合は、授業料が357,200円となります。

〈問い合わせ先〉静岡文化芸術大学 入試室 TEL：053-457-6401

静岡文化芸術大学大学院の特色

21世紀「市民社会」のキーワード「文化マネジメント」と「ユニバーサルデザイン」

21世紀は「市民」の時代と言われています。それは、20世紀社会が「政府」と「企業」という高度に発達した組織によって担われてきたのに対し、これからは「市民」が主体となり、自分たちの望む社会を創造していくことを意味しています。そのために、市民社会のリーダーには、様々な個性や多様な価値観を尊重しつつとりまとめていく、課題解決の能力が必要とされます。このことを踏まえ、文化政策研究科では、社会の文化的ニーズを把握し、政策を立案し、事業やプログラムを遂行するマネジメント能力のある人材を育成します。

また、デザイン研究科では「ユニバーサルデザイン」を基調に一人ひとりの個性を尊重しつつ、市民社会のニーズに応え、人間性あふれるモノづくりの能力を持った人材を育成します。既に社会の第一線で活躍中の社会人の履修も視野に入れ、入学試験では研究計画書、提出ポートフォリオ（作品集）などを重視するとともに、修士論文においても、各人の実務上の課題や問題意識にかかわる調査研究や政策提言などの考察も評価するよう配慮します。（デザイン研究科では、修士論文に代えて修了制作を行うことができます。）

SUAC

お問い合わせ

公立大学法人

静岡文化芸術大学

〒430-8533 静岡県浜松市中央区中央 2-1-1

TEL.053-457-6401 FAX.053-457-6123

E-mail nyushi@suac.ac.jp

https://www.suac.ac.jp/

■JR浜松駅より徒歩15分　■遠州鉄道「遠州病院駅」下車、徒歩8分
■遠鉄バス「文化芸術大学」下車